



わたしの 授業実践

～学級づくりと授業づくり～

音更町立下音更小学校

教諭 岩崎 龍之介

■はじめに

私の教師人生は、マレーシアのクアラ Lumpur 日本人学校から始まりました。豊かな自然、温かな子どもたち、尊敬できる先輩方に囲まれながら勤務した3年間、多くの学びを得ることができました。当時の経験が、今の自分を作り上げていると言っても過言ではありません。気付けば、教師になって10年目。時代が変わり、新しい指導方法が次々に出てきても、当時大切にしていたことは、今も大きく変わることはありません。

そこで、私の授業実践を①学級づくり ②授業づくりという視点で紹介いたします。

■安心できる学級づくり

私が様々な指導方法を実践する前に必ず考えることが、「今の自分の学級はこの方法が実践可能か」ということです。後述する自由進度学習などの方法論にも言えることですが、まず、子どもが安心できる学級づくりができていないと、どんなにすばらしい指導方法も実を結ぶこととはないと考えています。

そこで、学級づくりで私が現在実践していることを3点紹介します。

(1) 学級目標の浸透

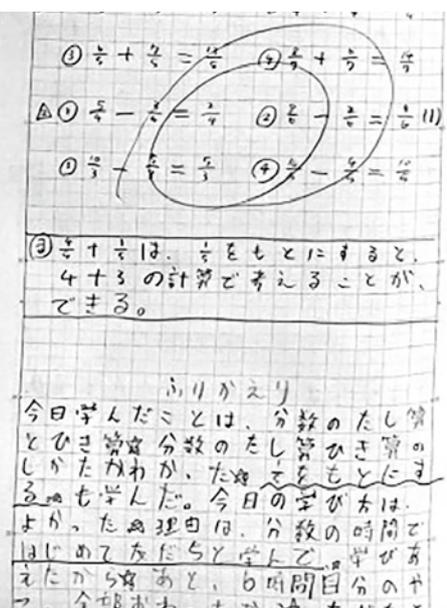
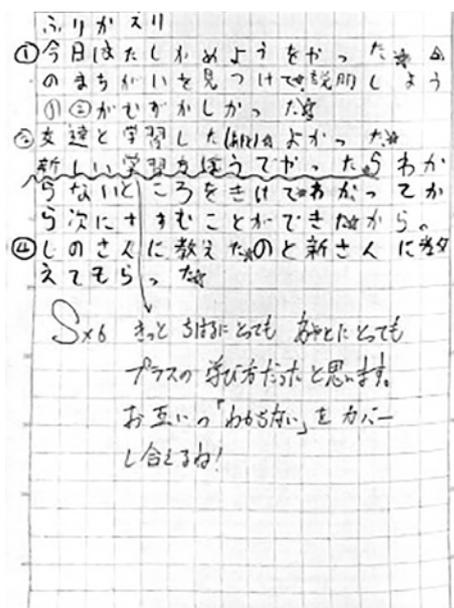
1つ目は、学級目標の浸透です。4月に取りあえず立てたのはよいけれど、学級を閉じる頃には誰一人覚えていない。そんな、形だけの学級目標になってしまふことがあります。今年度は、子どもの言葉で作った学級目標を、行事の際や、日常の様々な場面でしつこいほど言葉に出し、子どもにも私自身にも意識付けてみました。こうすることで、学級全体がどこへ向かっているのが明確になり、指導もぶれることが少なくなります。

(2) 言葉によるつながり

2つ目は言葉によるつながりです。現在、継続して行っている取組に、ノートへのコメント書きによる個別支援と、学級通信の発行による学級全体への発信があります。ノートへのコメントは、その日の学びに対して価値付ける言葉、励ましの言葉を書いています。自分の許容量を考え、算数1教科であれば毎日負担なく実践することができるので、毎時間コメントを書いて返却しています。学級通信も、子どもや保護者とつながる効果的なツールとして毎日発行しています。その日の子ども

子どもが安心できる学級づくりができていないと、

どんなにすばらしい指導方法も実を結ぶこととはない。



① 今日はいじめようをわかった。たまたまのまちがいを見つけで説明しよう
② かむかしか、た
③ 友達と学習した(勉強)よかった。たまたま新しいことをきいてあからう次にたすむことかできたから。
④ しのさんに教えたのと新さんに教えてもらった。
ふりがえり
Sx6 ねと 3つおとも ねと 2つおとも
たすの ねと 3つおとも ねと 2つおとも
お互いの「おとも」をかんじ合おう!

(3) 遊びを通した信頼関係の構築

3つ目は、遊びを通した信頼関係の構築です。私が勝手に作り出した言葉

たちの頑張りを書いたり、行事の際には保護者から発表に対する感想を書いてもらったりしています。



ですが、「鬼ごっこをすれば学級崩壊しない」という言葉を今でも心に刻んでいます。冗談のような、極論のような言葉ですが、自分なりに学級づくりがうまくいったと感じた年を振り返ると、子どもたちとたくさん遊んでいた

「子どもたちが楽しめるものか」

記憶が思い浮かびます。遊んだから学級がうまくいったのか、うまくいっている学級だから遊ぶ余裕があったのか。それは定かではありませんが、子どもと信頼関係を築くのに、私にとってもこれほど簡単な方法はありません。ですから、今も時間があれば一緒に体を動かし、子どもたちに負けじと本気で遊んでいます。

■「楽しい」と思える授業づくり

授業を考える際、大切にしていることは、「子どもたちが楽しめるものか」「自分がやっていて楽しいものか」という視点です。どのような実践にも、メリットとデメリットは付きものですが、自分が「楽しそう」と感じた実践は「取りあえずやってみよう」というスタンスで取り組んでみる人が多いです。次は、現在私が取り組んでいる授業づくりにおける実践です。

(1) 子どもによる司会型授業

本校の校内研究の中で、子どもが学び取る授業というものがありません。近頃よく言われる教師が話し過ぎない子ども主体の授業というのが、これに当たります。その実現に向けて取り入れられているのが司会型授業です。授業が始

まると、その日の司会の子どもたちが前時の振り返りを行い、本時の課題はどうするか、学び方は何を選択するか、学び合いの時間は何分必要かなどをクラスの子どもたちに投げ掛けます。教師が進めた方が効率が良いと思う場面もあります。可能な範囲で子どもたち同士の対話を重視します。これを続けていくことで、自治的集団の実現が可能になると考えます。

(2) 自由進度学習と学び方の選択

算数の授業の中で取り組んでいる実践として、自由進度学習と学び方の選択があります。自由進度学習では、その単元で使える時間をあらかじめ子どもたちに伝えておき、いつまでにどのページを学ぶのかを計画させます。1時間で2時間分進む子どももいれば、1時間分の内容に2時間を使ってしまう子どももいます。この方法がうまく機能すれば、個別最適な学びの実現につながると考えます。

そして、自由進度学習と並行して取り組んでいるのが、学び方の選択です。その日の課題に対して、どのように学びを進めるのかを子どもたちに選択させています。1人で学ぶのか、友達と学ぶのか、先生にヒントをもらって学ぶのか、毎時間自己決定の場を設定し

ています。自己決定することで、ただやらされる勉強から、主体的に学び取る授業になっていくのではないかと考えます。

■おわりに

試行錯誤を繰り返す日々ではありませんが、目を通してくださった方の何かの参考になれば幸いです。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

「自分がやっていて楽しいものか」

